

市民ネットワーク 千葉市議会 令和3年第1回定例会 (2月10日~3月3日)



# いわさき明子の議会報告

## 選挙に向けた短縮日程の中、新年度予算を決定

今議会では、4月からの令和3年度予算を主に審議しました。一般会計と特別会計(病院・水道・下水道も含む)の総額は8,878億200万円です。知事選挙出馬のため退任する熊谷市長が予算編成に関わりましたが、新市長の考える事業も進められる分の枠を残した予算(\*準骨格予算)です。今後新市長が使える新型コロナウイルス感染症対策費(\*国からの交付金)は21億円(見込額)、財政調整基金(\*市の貯金)は77億7,500万円あります。

### 新年度予算 市民ネットワークが注目した事業

令和3年度に新しく取り組む事業・拡充する事業で、市民ネットワークが注目しているものの中から3件紹介します。今後も事業の取り組み状況をチェックしながら、改善すべき点などを提言していきます。

#### 多胎妊婦の健診助成回数が 増えます

これまで、多胎妊婦(双子以上を妊娠した人)でも無料で健診を受けられる回数は14回でした。多胎の場合、母体や胎児のリスクが高まるため、通常妊娠時より健診頻度が高くなるのですが、助成が足りないため経済的な負担となっていました。市民ネットワークにも届いていた「助成回数を増やしてほしい」との声を受け、新年度からは無料健診が5回分追加され、19回になります。



#### 幼少期から木に親しめる おもちゃ作り

千葉市は2~3月にパブリックコメントを行った「環境教育等基本方針」の中で、「行政の役割は啓発を積極的に行い、環境に関する学習機会の充実と、行動を促すこと」としています。



今年度から、高等特別支援学校の生徒が千葉県産木材でおもちゃを作り、公立保育所等に届けることが始まります。幼少期から木に触れること(木育)が、親子で環境のことを考えるきっかけになればと期待しています。

#### 動物愛護に関わる ボランティア支援が進む

千葉市動物保護指導センター(稲毛区宮野木町)では、ボランティアの献身的な活動で犬や猫の殺処分を防ぐことができています。今までは飼育時の消耗品等をボランティアが自腹で賄うこともあったのですが、今後はミルクやペットシーツなどを市から支援するようになります。また、ボランティアと行政職員が話し合う懇談会も設置され、動物と人が共に幸せに生きられる千葉市に向け一歩前進と考えています。



### 市民からの要望等を議員の視点で発言(一般質問)

#### 自然災害による被害減にも役立つ 農林業の振興に取り組むべき!

近年ゲリラ豪雨や台風による被害は深刻で、一昨年、緑区では土砂崩れで尊い命が失われました。地球温暖化による気候変動対策を急がなければ、市民の命が守れないといっても過言ではない状況です。

市民や事業者に環境配慮行動を促すと同時に、農地や林地が洪水防止機能を持つことを再認識し、保全に取り組んでほしいと市に要望しました。具体的には、

- 「ちばし気候危機行動キャンペーン」の十分な周知
- 市の施策を、環境保全の視点をベースに進めること
- 農地や森林が本来持つ機能を活かした災害対策を
- 県と連携し、河川流域全体で行う治水対策に取り組むこと
- 県市間の積極的な連携で、有機農業をすすめること
- 耕作放棄地→有機的管理農地へ集約(国の事業を活用)
- 有機農業に取り組むための情報収集を行うこと
- 有機農産物の安定的な消費のため、学校給食に利用

の8項目の実現を求めました。

特に学校給食については「安定的な量の確保や食材費の増など課題があるが、小規模小学校への導入が可能か研究する」と回答を得たので、実現に向け提言を続けます。



#### 補正予算議案から みつわ台の浸水対策 前倒しで進む

国の補正予算(防災・減災や国土強靱化の推進などに使える)を活用し、令和3~4年度に実施予定だった浸水対策事業が前倒しで実施されています。



その中の一つとして、みつわ台第2公園の駐車場と遊具広場の地下に雨水貯留施設(雨水を一時的に貯めることができる施設)をつくりま

す。7500m<sup>3</sup>の雨水を貯めることができ、豪雨時の道路冠水等を減らし、浸水被害を防止することが期待されます。

完成予定の令和4年度までの総事業費は14億8500万円です。

#### 無秩序な太陽光発電にNO!

緑区にお住まいの方から「太陽光パネルが家のすぐ脇に設置されている。裏にも設置の計画があり、困っている」と聞き、市民ネットワークのメンバーと現場を見てきました。緑豊かな地域ですが、98kW規模の発電施設があり、その周りに住宅が並んでいます。再生可能エネルギーを普及させていくことは必要ですが、だからといって、市民の居住環境を損なうやり方での建設は認められません。

「太陽光発電施設のあり方について考える会」を立ち上げ、千葉市長選候補者に公開質問状を出したところ、すべての候補者から「何らかのルール(条例)が必要」との回答を得ました。今後、条例化に向けての動きをつくっていきます。



▼反射光がまぶしい  
(市議 松井かよ子)